

国家認定推進委員会休止と委員会活動移管のお知らせ

国家認定推進委員会は、学会認定である“消化器内視鏡技師”から、より専門性を高め、医療・社会への貢献、地位向上を目指して、国家認定資格にすることを目的に活動してきました。

厚生省（当時）に相談したところ、国家認定には「社会の要求」という観点で、「国民から健康福祉に関する強い要望があること」「世の中（行政）に認知されること」「教育機関（学校）があること」が要件として示されました。

委員会としての活動は、前身である国家認定調査委員会からはじまり、業務実施状況アンケート、看護部長意識調査、教育カリキュラムの作成、業務標準化、業務指針の作成、集中医学講義、日本消化器内視鏡学会はじめ関連団体との協議などを行い、およそ30年間続けてきました。

しかし、消化器内視鏡技師会会員や消化器内視鏡の現場では国家資格とすることへの要望はある程度あるものの、

- 国民の認知は低く、要望も乏しい
- 内視鏡技師養成のための教育機関（学校）がなく、今後作られる見込みもない
- 国家資格であるためには、消化器領域に特化したものではなく、全領域の内視鏡を対象としていなければならない

といった現状では、消化器内視鏡技師を国家資格とすることは極めて困難で、国家資格になる可能性は無いと判断せざるを得ません。

よって、“国家認定推進”を標榜した委員会活動を続けることは現実的でないと判断し、国家認定推進委員会の活動は2020年度をもって一端終了することといたしました。国家認定になることを期待し、応援してくださいました皆様には、申し訳なく思います。

これまで国家認定推進委員会が中心となって行ってきた以下の事業等は、他の委員会や今後新しく設置する委員会に引き継ぎ、今後も内視鏡技師会としてさらに発展させていきたいと考えております。

- 内視鏡技師のレベルアップを目指した教育体制づくり
- 医学講習会の開催および各支部・各県開催の支援
- WEBセミナーの開催
- e-ラーニングの導入
- 業務指針作成と啓発、など

新しい委員会や開始する事業等につきましては、会誌およびホームページでお知らせして参りますので、会員および内視鏡関係スタッフの皆様には、今後とも技師会活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

2021年1月10日

一般社団法人 日本消化器内視鏡技師会
代表理事 角森 正信